

## 2021年3月24日 個人投資家向けオンライン説明会

### 主な質疑応答

(内容につきましては、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しております。)

Q. 離職率について。

A. 離職率につきましては、前年度が7.3%に対して、本年は11.7%。4.4ポイント悪化して着地しています。離職率悪化の主たる要因分析ですが、まず、例年に比べて、プロジェクトの終了者が増加したこと、加えましてコロナの影響により、Uターン、並びにIターンの転職希望者が増加したことが、離職率悪化の要因と分析しております。

Q. 緊急事態宣言が解除されたが、御社の顧客に変化はあったか。案件は増加したか。

A. 昨年、緊急事態宣言が発出された時と比較して、本年度の緊急事態宣言下におきましては、大きな悪化の変化はございませんでした。昨年来、現在に至るまで、技術者の約50%は継続的に在宅勤務を推進しています。それらの影響もありまして、緊急事態宣言が発出された、あるいは解除されたことによる、在宅勤務率の変動も今のところございません。また、徐々にですが、お客様の案件も目に見えて増加している感触を得ています。今後は経験者のみならず、未経験者のお客様の要望が増加してくれば、現在社内研修中の未配属者の配属進捗は確実に進むと予測しております。

Q. 御社のお客様は、自動車業界が多いかと思うが、自動車業界の来年の研究開発予算の見通しについて。

A. 2021年度は、お客様のほとんどの新年度が4月からですが、概ね2020年度レベルの研究開発予算で堅調に推移すると現時点では予測しております。加えまして、政府発表の「脱炭素」、あるいは自動車業界のテーマでありますCASE、あるいはDXの研究開発案件が目白押しです。そのような状況下を考慮しますと、2020年度研究開発費予算をボトムとして、それ以上の積み増しは期待できる可能性が大いにあると予想しております。

Q. 前期50%未配属の2020年入社の新卒・キャリア技術者の直近2、3月の配属進捗について

A. この2カ月で、20名程度の配属が進捗いたしました。

Q. 数だけでなく質の維持・向上が重要と思うが、具体的にどのような策を実施しているか。また、質の計測はどのように行っているか。

A. まず質の向上につきましては、やはりマーケットであるお客様からの評価に基づいて、採用基準の見直しを適宜、図っております。採用の質の向上をタイムリーに図っております。加えまして、社内研修の質の向上を行うことによって、個々の技術レベルの向上を推進しております。

また、質の計測につきましては、お客様からの評価で行っております。お客様から評価表をいただくということに加え、お客様からいただく技術者の契約単価の推移が、個人個人でどのように年々推移しているのか、数値計測をさせていただいております。

Q. コロナ禍の状況でこれからの対応について、お聞かせください。

A. コロナ禍の状況につきましては、まず昨年度、2020年度につきましては、初めての有事、それもパンデミックということで、想定を超える、あるいは想定できない事象が様々発生いたしました。しかしながら1年経過後、お客様の状況もようやく落ち着き、当社のコロナへの対応もようやく落ち着いてきたという状況です。従いまして、ウィズコロナから、アフターコロナに向かってマーケットがどのように変化していくのか、お客様のニーズがどのように変化していくのか、世の中の価値観がどのように変化していくのか、それをいち早く予測しながら、事業展開に活かしていきたいと考えています。

以上